

ありがとう

中野サンプラザ



2023年6月で開業50周年を迎える中野サンプラザ。都内有数のコンサート会場として、また、中野のシンボルとして長年愛されてきたが、中野区北口エリアの再開発により、2023年7月2日に閉館することが決定している。惜しまれながらも閉館する中野サンプラザの歴史を振り返る。

サンプラザの歴史

全国勤労青少年会館（愛称中野サンプラザ）は、働く青少年が気軽に利用でき、明日への活力を養えるように、というコンセプトで建設された大型複合施設だ。作られた当初はこういった複合施設は全国でも数が少なく、画期的なものだった。

館内には設立の趣旨に基づき、総合相談室・図書館・学園・研修室をはじめ、スポーツ施設やコンサートホール、結婚式場、レストラン、喫茶、ホテルなどが併設された。

昭和48（1973）年6月1日、全国勤労青少年会館の営業が開始されると、多くの若者が利用した。様々な講演会やコンサートには数多くの著名人が出演し、上皇上皇后両陛下も来館されるなど、全国の注目を集める施設であった。

開館から運営を行っていた特殊法人の雇用促進事業団から、5年後には財団法人勤労者福祉振興財団へと運営が交代。さらに2004年、中野区と金融機関・企業等が出資して設立された所有会社「株式会社まちづくり中野21」に売却され、運営は並行して設立された「株式会社中野

サンプラザ」が行い、同年12月より運営を開始した。

図書館などの併設施設は民営化に伴い閉鎖されたが、ホテルやコンサートホールなどは引き継がれ、今日まで中野区のシンボルの存在として、数々のイベントを行ってきた。

これからのサンプラザ

中野サンプラザが閉館された後は、その跡地で再開発が予定されている。再開発事業者は「中野4丁目新北口駅前地区拠点施設整備」を進める野村不動産、東急不動産、住友商事、ヒューリック、JR東日本の主要5社。2021年に中野区と基本協定を結び、7000人規模を収容できるホールや、1100戸の住宅や店舗、オフィスやホテルなどを備えた複合施設として開発する計画を示している。新たな施設は28年度末の竣工を目指す。

酒井区長は「新しいサンプラザをさらに使っていただきたい」とコメントをしている。



サンプラザ豆知識

サンプラザの名称

正式名称は「全国勤労青少年会館」で、一般公募で決まった愛称が「サンプラザ」だった。これは、親しみやすさと分かりやすさをテーマに募集したもので、エネルギーの象徴である「太陽」と、人々が集う場所である「広場」を表現したものだ。

サンプラザの形

サンプラザという特徴的な姿がまず真っ先に思い出されるが、あの形には意味がある。「勤労青年にふさわしい健全な姿」として、三角形断面のデザインになったのは、多数の人が利用する施設ほど下にする必要があるという、防災避難計画の観点だけではない。「分かりやすく、単純な、大きな三角形」として建てられ、遠くから見ても分かりやすいものを目指した。その結果、中野のシンボルとして長年愛され続ける形となったのだ。

開館日当初の様子

鼓笛隊、バトン・トワラーズの華やかなパレード。中野駅北口の商店街では祝サンプラザのオープニングパレードも行われ、地域全体でお祝いされ迎え入れられた。



右図は開館当時のサンプラザの写真。周囲にはあまり高い建物が無く、サンプラザの個性的な建物が目立って見える。



カリヨン時計塔

残念ながら、現在カラクリは稼働していないが、この記事を書いている最中に中野に住む友人に「待ち合わせはサンプラザの時計の下ね」と言われたので驚いた。中野に住む人々にとって、サンプラザがいかに近い存在なのか改めて考えさせられた。

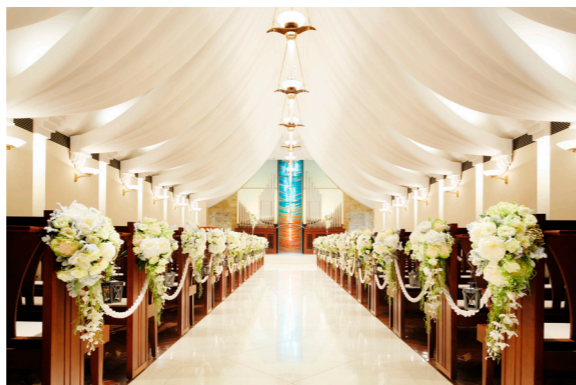


結婚式場

6月に開館したサンプラザは、半年後の12月16日に1000組目の挙式者に記念品を贈呈すると、その翌年には2000組、3000組目の挙式者に贈呈している。この数字を見てもサンプラザで結婚式を挙げたいカップルが沢山いたことが分かる。親子二代に渡りサンプラザで結婚式をあげる家族もいたという。

コンサートホール

ホールは約2200人を収容することができ、数々の有名人がコンサートを開いている。また、音響家が選ぶ優良ホール100選にも選ばれている。



※本誌の掲載内容・お知らせ情報は記事作成当時のものです。

※参考資料は最終頁に掲載